



## ～ 畜産指導所の閉鎖について～

小笠原の農業振興に長く携わってまいりました畜産指導所が平成30年3月をもって業務を終了することとなりました。

昭和46年に畜産指導所の前身である亜熱帯農業センター畜産部門として、父島洲崎地区に6.8haの牧場と6頭の和牛、繁殖豚、採卵鶏などを導入し業務が開始されました。和牛の貸付事業、子牛や子豚、鶏卵の配布などを通じて畜産の普及と畜産物確保並びに家畜ふん堆肥生産による農耕地の地力維持を推進してまいりました。

昭和61年には畜産指導所として母島評議平地区に機能を移転、有畜農業推進を目指し、和牛子牛生産と農家への有償配布、飼料作物栽培試験、農家技術指導などを実施してまいりました。

この間、和牛を飼養された農家は30戸近くにのぼります。畜産指導所として生産した子牛は173頭、うち131頭が農家の皆様に有償配布されました。131頭の多くは肥育素牛として内地の肥育農家に販売された他、一部のメス牛は繁殖牛として堆肥生産および農家牛舎での子牛生産に貢献しました。

有畜農業推進を図るため、和牛の生産、配布を強化した結果、平成5年には小笠原における堆肥必要量の約21%を牛ふん堆肥から供給したとされています。

農業振興のための施設でありましたが、母島島内では気軽に牛や鶏が観賞できるレク

リエーション施設として来所された方も多くいらっしゃいました。また、保育園児を対象に、恒例行事としてイモほり遠足の場所を提供させて頂いた他、小中学生の見学や職場体験授業など、教育の場としても活用いただきました。長い間、幅広い島民の皆様にご愛顧頂きましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお、畜産に関する業務は引き続き支庁産業課で対応いたします。産業担当、亜熱帯農業センター、営農研修所が窓口となり、内地の畜産担当者と連携を図りながら取り組んで参りますので、ご理解、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。



平成30年3月19日に行われた閉所式の様子

<畜産指導所：太田>